

富士山（石川丈山）短歌（山岡鉄舟）

短歌 晴れてよし曇てもよし富士の山

元の姿は変らざりけり

仙客 来り 遊ぶ 雲外の 巔  
神竜 棲み 老ゆ 洞中の 淵

雪は 紈素の 如く 煙は 柄の 如し

白扇 倒しまに 懸る 東海の 天

仙客來遊雲外巔 神龍棲老洞中淵  
雪如紈素煙如柄 白扇倒懸東海天

解説 靈峰富士の神秘をのべ、東海の天に白扇を倒懸する雄大秀麗な山容を賛嘆している詩。

語釈 ※仙客 仙人が来て幸福と寿命を授けてくれるとの思想から出たもの。 ※神竜 神変靈妙な働きをする竜。

※紈素 白い生絹。白い扇面をいう。 ※柄 扇面以外の三角形になつている骨の部分。 ※白扇 白い扇。

通釈 仙人が来て遊んだという、神聖な富士山の頂きは雲を抜いて高く聳えている。また山頂にある洞窟の中の淵には、神竜が棲みついていると伝えられる。白雪に覆われている純白の富士山からでた煙は、扇の柄のようで、まるで白扇を逆さにして、東海に置いたような雄大な眺めは、実に天下第一等の山の名に背かぬものである。